

広島学院中学校

入試科目	算数(Ⅰ)	算数(Ⅱ)	国語	理科	社会	総合	
試験時間	20分	40分	60分	40分	40分		
配点(予想)	※45点	※75点	120点	80点	80点	400点	
合格の目安	得点	35点	40点	74点	51点	38点	238点
	(%)	77.8%	53.3%	61.7%	63.8%	47.5%	59.5%
昨年度との比較	横ばい	横ばい	やや易化	やや難化	横ばい	やや難化	

※算数Ⅰと算数Ⅱの配分は、鯉城学院の予想です。

算 数

【算数Ⅰ】

- | | | | | |
|-------------|--------|------------|------------|------------|
| ① 分数の四則混合計算 | ② 和差算 | ③ 割合 | ④ 速さと比 | ⑤ 平面図形(角度) |
| ⑥ 平面図形(長さ) | ⑦ 数の性質 | ⑧ 割合に関する問題 | ⑨ 平面図形(面積) | |

【算数Ⅱ】

- | | | | | | |
|--------|-------|---------|-------|------|-------|
| ① 分配算 | 小問数：3 | ② 容器と水量 | 小問数：3 | ③ 速さ | 小問数：3 |
| ④ 平面図形 | 小問数：3 | ⑤ 割合 | 小問数：3 | | |

広島学院中は計算と一行問題9問で構成された算数Ⅰと文章問題5題で構成された算数Ⅱに分けて実施をされます。今年も形式は例年と変わらず。難易度も昨年とほぼ同じでしたが、昨年よりも平均点が少し上がるかもしれません。今年も単元に偏りはなく、よく練られた問題で構成されています。

算数Ⅰは計算を含む一行問題9問です。

[1]は分数を含む四則計算。難易度も例年と変わりません。[2]

基本的な和差算の問題です。ミスをなくするために線分図を書いて丁寧に解くべきです。[3]はほぼ毎年出題される、3量を比較して求める割合の問題。今年では重さ、値段、個数を比較して代金を求める問題でした。[4]はよくある速さと比の問題。[5]折返しの図形の角度の問題。「折返しは同じ角度、同じ長さができる」が理解できていれば簡単な問題です。ここまでは基本的な問題ばかりで難なく解けたと思います。が、ここから少し難易度が上がります。[6]で手が止まった受験生が多い

のではないのでしょうか。横を3 cm 短くしなければ、もとの長方形との差は38cm。これがもとの長方形の縦の長さの2倍です。[7]は数の性質に関する問題。大きい数からあまりの15を引けば、小さい数の倍数。つまり $130-15=115$ が小さい数の倍数です。[8]は50円引きの1個の値段を①と置くことに気づけば難しくはない問題です。[9]は円を含む図形の面積を求める問題。図形に曲線が含まれている場合は必ずおうぎ形を使う鉄則を考えれば、円周上点と中心を結んで難なく解ける問題でした。[6]で少し手こずったかもしれませんが、それ以外の難易度は高くありませんでした。数年前までは前半にも受験生が苦戦しそうな問題が配置され、それ以外の問題も考え方は基本的であっても、ぱっと見た瞬間にすぐ解ける典型的問題はなく、20分という試験時間では全問余裕をもって考えることが難しい構成でした。この3~4年は以前と比べると取り組みやすくなっています。ミスをなくし、悪くても1~2間違いに留めたいです。取り組みやすくなったとはいえ、広島学院中の問題ですから基本的な問題だけが出題されているわけではありません。いろいろな問題に取り組んで解法を身に付けておくことが大切です。

算数Ⅱの出題数は例年通り5問でした。

[1]は分配算。(1)は基本問題。(2)は残金と同じなので、金額の差が、弟が買ったりんごの金額の2倍。基本に忠実に(1)で線分図を書いていけば(2)もすぐ解けたはずです。(3)はそれぞれの所持金から残金の430円を引いた金額がももの値段の倍数。公約数を考えれば答えが出ます。

[2]は容積と水量に関する問題。(1)は広島学院算Ⅱの問題にしては簡単すぎ。(2)の(あ)も容器と水量の問題としては頻出の内容で、失点できない問題です。(2)の(い)は容積から満水になったときの水量の合計を引けば重りの体積が出ます。最後の問題も比較的簡単。合格を目指すなら3問とも正解をしたいところです。

[1][2]までを軽快に解いてきた受験生も[3]では少し時間がか

かったのではないのでしょうか。速さに関する問題で(1)は速さの比から答えはすぐ出ます。(2)は速さの比を元にかかる時間を少しずつ求めて周りの長さを求めます。鯉城学院で学んだ生徒は6年生前期で類似問題を練習しています。(3)は周りの長さが求まれば、Q地点を通過する時間を求め、倍数を考えれば求まります。

[4]は平面図形。(1)は上底と下底の合計を問われています。面積と高さがわかっているので難なく解けます。(2)も2つの三角形の面積が等しく、底辺の比がわかっているので、高さの比が求まります。(3)は受験生を悩ませた問題だったのではないのでしょうか。今年度の算数Ⅱの中では一番難しい問題でした。解き方はいろいろありますが、「広島学院中の算数Ⅱはほぼ毎年つるかめ算を使う問題が出題される」ことと「この[4]までつるかめ算を使う問題が出ていない」ことに気付いた受験生は、この問題をつるかめ算で解いたかもしれません。

[5]は広島学院中らしい、大問の中に色々な単元が含まれた問題です。(1)は単純なわり算。(2)は差集め算。ここまでは解けたのではないのでしょうか。(3)は[4](3)と同様に今年度の受験生を悩ませた問題でした。増減の体積の逆比が人数比になることに気付けば、人数が求まるので、1人がもらえる水の量も求められます。

数年前に比べて近年の問題は、ⅠもⅡも、広島学院らしさは残しつつも、易化しています。今年も昨年とほぼ同じぐらいの難易度でした。今後もこの傾向が続くのではないかと思います。問題が解き易くなったとはいえ、広島の男子校の最高峰。超難問が減った分、合否を分ける問題が多くなったともいえます。ぱっと見て解けるような基本問題は多くはありませんので、問題文をよく読み、しっかりと考える力が必要です。広島学院中で頻出の問題のみの対策ではなく、中学受験に必要な算数の知識を満遍なく勉強しながら、算数Ⅰは時間を意識し、算数Ⅱはやや難しい問題を試行錯誤しながらねばり強く考えて解く練習をすることが大切です。

国語

一 朗読詩「生きる」＋解説文（オリジナル文章）

（詩と解説文 105行＋約2000字 小問数17問 うち記述2問）

二 辻村深月『家族シアター』「1992年の秋空」

（物語文 約3400字 小問数15問 うち記述4問）

良質の素材を選ぶ確かな眼、卓越した料理の腕、それが学院国語である（はず）。12歳の男子の国語力を測る王道と言える問題を出題してくる。語句や漢字をゴリゴリ覚えて、公式めいた読解テクニックで乗り切ろうとするとあっさりふるい落とされる。だからこそ、毎年1月が待ち遠しい（可否となると話は別だが）。

例年広島学院は物語文と説明文の二題構成。手にした2019年度の問題に目を通す。まず大問一。「ん？」「詩？」「長い！」「あれ？この詩は！！！」2018年6月23日「沖縄慰霊の日」の追悼式で、中学3年生の相良倫子さんが朗読した平和の詩「生きる」。約半年前、多くの人を感動させた朗読詩、そうきたか。当然のことながら、解説文は広島学院の先生が書いているのだろう。説明文の代わりに、詩「生きる」と解説文、平和について考える機会の多い広島学院ならではの出題である。

105行、20連の口語自由詩は平和な今と悲惨な戦争があった過去を対比させながら、明るい未来を求め、つくる決意を描いている。大問一から詩が出題されたことで動じた受験生は多かっただろうが、腹を決めて取り組みさえすれば読みやすく、わかりやすい。

問一は「いななき」「せせらぎ」を挿入する空所補充、問二は「（ありったけの私の感覚器で、感受性で、島を感じる）心がじわりと熱くなる。」で表される気持ちの選択問題、問三「阿鼻叫喚」の意味を選ぶ問題、問四「あたり前に生きていた、あの日々を」に係る言葉の抜き出し、問五「真の平和を発進する」とはどうすることかを説明している連を選ぶ問題、問六は「私は、生きている」、「私は今、生きている」、「私はこの瞬間を、生きている」、「私は、今を生きている」と「生きている」が繰り返される効果についての選択問題、問七「それを全身で、そして心で感じ取り」の「全身」と同じ内容を表す表現の抜き出し、問八は解説文中の「平和を思って。平和を祈って」、「生きていこう〜」、「沖縄の過去と現在、そして未来に向けて、「」が響き合って、「これからも、共に生きてゆこう」の空所に当てはまることばを

詩の中から抜き出す問題、いざ問題を解き始めるとここまで一気に解ける（はず）。問九と問十は記述問題。問九は「戦争は人を鬼に変えてしまう」について「人を鬼に変える」とはどういうことか一行で説明する問題だが、おそらくなんとなく書ける問題で部分点は取れる。問十は解説文中の「今、行き着いた彼女の決意」とはどのような「決意」かを説明する。「決意」が「誓い」だとわかれば答にたどり着けるだろう。問十一の漢字の書き取りは基本的なもののばかりだが、語句の練習をおろそかにした受験生はこういうところでぼろぼろ失点する。

大問一はまず詩のチョイスがすばらしい。そしてこういう作品を入学試験で真剣に読ませようとする学校の姿勢を評価したい。難問奇問もなく素直な出題も好感が持てる。広島学院、さすがである。

大問二、「ん？…やられた〜！」というのがぼくの最初の反応。辻村深月の『家族シアター』から「1992年の秋空」を出題している。明るい性格の姉はるかとは宇宙飛行士になることを夢見るやや不思議ちゃんの妹うみかの小学生の姉妹の物語。出題箇所は妹のために学級だよりに毛利衛さんが乗り込んだスペースシャトル・エンデバーの打ち上げの感動と祈りを記事にして載せる場面である。実はこの作品は模擬試験で出題しようとしていた。というのも、2016年に麻布中、2017年に慶應湘南藤沢中・洗足学園中で出題されており、なんとしても塾生に読ませたかったからだ。…ホント、やられた…。

問一「表情を改める」とはどういう表情になったかを説明する問題、問二「悪目立ちする」とはどうなることかを説明する問題はいずれも場面から判断すれば答えられる。問三は空所に副詞を挿入する選択問題で易しい。問四と問五の記述問題は難問ではないのでいねいに読んで解答したい。問四「ぎゅっと、拳を握って、震える」はシャトルの打ち上げ場面なので興奮、喜びの様子だと考えればいい。問五は「文章を書くのが楽しいなんて、初めて感じた」その理由を一行で説明する。うみかに教わったことが学校に認められたことをうみかに伝えたい気持ちが読

み取れば解答できるだろう。問六は「毛利さんが宇宙に行っているうちに（学級だよりを）印刷して配って欲しい、と先生に申し出た」理由を選ぶ問題で、選択肢をていねいに読めば難なく答えられる。

問七、自分の書いた文章が印刷された学級だよりを見て「死にそうになるぐらいドキドキした」このときの気持ちを文章中から二字熟語で二つ選ぶ問題は悩んだかも知れない。「期待」はすぐ出るだろう。もう一つは「覚悟」なのか「緊張」なのかで悩むかも知れない。問八は「身体の真ん中に柔らかな光が灯ったように」という比喩はどんな気持ちを表しているかを考える選択問題だが、これは楽勝。最後の山が問九の記述問題。「（感情の起伏の薄い妹だけど、）それでも、私が真っ先に嬉しい知らせを伝えたいのは、あの子だった」その理由を説明する問題だが、うみかが宇宙飛行士になりたがっている、妹を喜ばせたいという視点で解答すればいいだろう。問十の漢字の書き取りは基本問題で全問正解し

たい。ただ「熟読」や「事前」あたりが書けない人がいるかも知れない。

今年はやや易化したように思うが、広島男子トップ校の選抜試験として相変わらずその完成度は高い。考えさせる問題を要所にちりばめながら、論理的に文章を読み取り、問われていることを正しく理解する力を測る良問である。特に大問一の詩と解説文は素晴らしい素材をていねいに料理しており、かつ広島学院という学校色も反映された良問である。全体的に文章量、問題量も適当で、ていねいに解いていっても時間切れになることなく、全力を出し切ることができた受験生は多いのではないかな。

合格の目安は6割強あたりか。ロジカルな読み方がちゃんとできれば確実に得点できるという点で、広島学院国語は万古不変。十二歳の男の子が身につけてほしい読解力をはかるひとつの典型と言える。(kuro)

理科

- 1 地学分野から、Ⅰ. 星の動き Ⅱ. 月の動き に関する問題（小問10）
- 2 化学分野から、ベーキングパウダーの成分分析 に関する問題（小問9）
- 3 生物分野から、地球カレンダーと動物の分類と進化 に関する問題（小問8）
- 4 物理分野から、浮力とてこ に関する問題（小問14）

2019年度の入試問題も、地学・生物・化学・物理の大問4題の構成で例年どおりです。そして、注目？の最後の物理誘導問題は「浮力」中心の内容でした。浮力は、毎年、どこかの中学校で必ずといっていいほど出題されるような頻出のテーマではありません。したがって、演習量を問うというより問題設定の中で「約束」「決まりごと」を示しながら考えさせていく内容になっていて、読解力、思考力が試されたといえます。また、他の問題についても定番の受験知識だけでは太刀打ちできない思考問題が並びます。

- 1 Ⅰ. 星座早見、夏・冬の大三角、北極星の知識問題で失点は許され

ません。Ⅱ. 月の出は1日に50分遅れる、同じ時刻で観察すると東へその位置を移していく。また、同じ日に月の動きを観察すると、地球の自転の影響で東から西に動くように見える。このような一連の知識（特に、自転や公転の周期に関係する数字）は、一旦傍らに置いて、ここでは、図3・4で与えられた観察結果の数字を事実として、考えながら計算を進めていく考える力と正確な計算力が必要な問題です。

- 2 ベーキングパウダーという身の回りに普通にある物質（男子なので、女子ほど身近なイメージはないかもしれませんが。もしかすると逆にかけ離れた物質として捉えたかもしれません。）を素材とした問題で、その

成分がわからなくても(1)～(4)は、受験知識で解くことができますし、解けないといけない問題です。最後の(6)は、2つの成分の役割の違いに注目するという記述は字数制限も手伝って受験生にとっては難しかったと思います。ここで、必要以上に時間を費やすのは得策ではありません。すぐに、解答が浮かびそうになれば、次の問題に進むべきでしょう。

③ 地球カレンダーは、よく用いられるテーマで、当然のように地球の歴史時間と1日の時間との対応という面倒な計算が出題されています。何度もやり直したり、立ち止まったりする時間はありません。素早く、正確な計算が必要で一発解答が求められます。(4)は難問です。紫外線の影響とオゾン層の役割までの知識はあったとしてもオゾン層形成の背景まで説明するのは厳しいでしょう。解答欄の大きさを考えてもそこ

まで解答として要求はしていないと思いますが…。

④ (1)・(2)で重さと体積の意味、(3)で金属1cm³あたりの重さの理解を確認させ、浮力の大きさは何によって決まるかを表2で示しています。この流れにそって考えていけば、(1)～(5)は全問正解しないといけません。そして、後半の(6)～(11)では、1cm³あたりの金属の重さを考えながら浮力を求める問題や、てことの融合問題、グラフ作成と多様な出題が続きます。今まで演習してきた真価が問われたはずです。最後まで解き切った生徒は間違いなく合格点に達したでしょう。

このような入試問題に対応するには、幅広い受験知識と実験データなどを分析、判断する力、そして、状況設定の複雑な計算問題を解き切る思考力と正確な計算力を備えていきましょう。

社会

- ① 《歴史・時事・広島関連》 昨年 の 新聞記事 を テーマ に した 歴史問題 (13問)
- ② 《歴史》 武士 を テーマ に した 歴史問題 (10問)
- ③ 《歴史・地理》 ご 当地 グルメ を テーマ に した 近世 から 現代 までの 歴史 と 地理 の 融合 問題 (12問)
- ④ 《公民・融合》 平成 の 出来事 を まとめた 年表 を もとに 公民 中心 の 問題 (12問)
- ⑤ 《地理・歴史》 日本 の 人口 「人口 重心」 を テーマ に した 地理 ・ 歴史 の 問題 (13問)

2019年度入試の問題数は59問と昨年よりも5問多い問題数で、問題用紙は昨年よりも2ページ多い29ページとなりました。広島学院中学はとにかく問題数が多く、テキパキと問題を処理していかないと時間が足りなくなることがあるので要注意です。解答用紙もびっしりとつまっていて、合格するためには難問に時間を取られすぎず基本レベルの問題を如何にミスなく処理していくかが合格の秘訣となります。また今年も昨年同様、時事に関連させた出題が見受けられました。また文章記述問題は昨年より1問多い9問出題されていました。記号選択問題は27問出題

されていましたが、昨年5問も出題された「答となるものをすべて選びなさい」という難度の高いものは1問だけで、代わりに「2つ」「3つ」選びなさいという問題が4問出題されていました。

①は昨年 の 新聞記事 を テーマ に した 歴史 と 時事 と 広島 関連 の 融合 問題。辺野古 沖 移設 問題 や 世界 遺産 に 登録 された 大浦 天主堂 など の 時事 問題 や、2016年 に オバマ 大統領 (当時) が 広島 を 訪問 した こと や、広島 ・ 長崎 の 原爆 投下 時刻、原爆 投下 した 「リトルボーイ」「ファットマン」、原爆 死没者 慰霊 碑 の 文言 など 広島 に 関する 内容 が 多く 出題 されました。

広島学院中学は毎年、広島に関する問題を出題していますので普段から広島についてしっかり学んでいきましょう。また問6（2）の江戸幕府がキリスト教を禁止した理由を説明させる問題が文章記述問題として出題されています。

②は古代から近世までの武士をテーマとした歴史問題。各時代の特色を尋ねる基本的な内容の出題でした。文章記述問題は室町時代の初期に元号が2つ存在した理由と、江戸幕府が外様大名を江戸から遠い場所に配置した理由を尋ねる問題でした。

③は広島の「お好み焼き」などの「ご当地グルメ」をテーマに近世から現代までの歴史、そして地理分野では愛媛県の漁業の特徴を円グラフから読み取る問題が出題されました。歴史においては「大塩平八郎の乱（1837年）」「満州国建国（1931年）」「日本の国際連盟脱退（1933年）」「盧溝橋事件（1937年）」「日本国憲法公布（1946年）」「サンフランシスコ平和条約（1951年）」「自衛隊発足（1954年）」「日本の国連加盟（1956年）」など年号を覚えていれば容易に正解を導ける出題が多かったです。歴史を勉強する上で年号を暗記することは、算数において九九を覚えるのと同じくらい基本的なことです。主な年号はしっかり覚えていきましょう。

④は平成最後の入試問題らしく、平成の出来事をまとめた年表からの公民分野中心の出題でした。時事的な内容では消費税増税に関連して「逆進性」や「軽減税率」を説明させる文章記述問題が出題されました。また半分以上の問題がグラフや図、文章を読み取らせる内容の出題でした。中でも1999年瀬戸内しまなみ海道開通の広島の地理の問題や第五福竜丸事件の歴史問題など、公民だけでなく他の分野との融合問題も見受けられました。

⑤は日本の人口に関する問題で、普段聞き慣れない「人口重心」をテーマとした出題でした。「人口重心」については設問の最初に詳しい説明があり、その内容をしっかり理解した上で8つの都道府県を形だけで

判別し、なおかつそれぞれの都道府県で一番人口が多い都市である庁所在地の位置を覚えていないと正解にたどり着けない問題でした。特に問4はその傾向が著しかったです。全体的に地理分野の正確な知識が要求される良問と言えます。また問3では地図記号を描かせる問題が2問出題されましたが、愛媛県の道後温泉、大分県の別府温泉、神奈川県箱根温泉、三重県の伊勢神宮、島根県の出雲大社など全国的に有名な観光地を知らないと答を書けない出題でした。問5は「人口重心」に関連した歴史の問題で、弥生時代の稲作開始や近代の内容を理解していないと解答にたどり着けなかったと考えます。

とにかく今年の広島学院中学は文章記述が多く、グラフや統計表地図の読み取りが必要な問題が多かったです。また広島関連問題も、昨年同様に数問が出題されていました。各分野とも基礎知識を徹底暗記することは不可欠です。そして、2020年の大学入試改革（高大接続改革）を見据えて年々「思考力」「表現力」が必要な問題が増えてきていますので、そのような問題への対策は必要です。また広島関連問題・平和関連問題は今後とも出題されることが予想されますので、広島県内および広島市内の地理・歴史などはしっかりと覚えておきましょう。

最後にとにかく時間内に問題を解くことが重要です。まずできる問題から解いていく姿勢は大事です。時間のかかりそうな問題や難問は誰が解いても難問なので、できなくても気にせず標準問題をミスなく解くところに専念しましょう。極端なことを言えば「10秒考えて答の見当がつかない問題は後回しにする」くらいの気構えで取り組んで構いません。地理・歴史・公民すべての分野で正確な知識の理解が問われています。暗記科目だからといって単純暗記するだけでは広島学院中学の問題には太刀打ちできません。しっかりと語句の意味や背景などを理解して受験に挑みましょう。難易度は年によって異なりますが、受験生にとってはミスのできない厳しい入試です。最後まで諦めず問題に取り組む姿勢と、少々分からない問題があっても動揺しない強い精神力が必要不可欠と言えます。